

長岡工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	現代社会	
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	最新現代社会 (実教出版) / 資料集、地図帳						
担当教員	佐藤 公俊,小名 富男						
到達目標							
(科目コード: 00070, 英語名: Contemporary Society) この科目は長岡高専の学習・教育目標の(A)と主体的に関わる。この科目の各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育到達目標との関連の順で次に示す。① 社会や世界の仕組みと現状を学び、人類的に重要な問題を把握すること。70%(a1,2,3)、② 社会的な常識や問題意識および、良心的判断の基礎を獲得すること。15%(a1,2,3)、③地球市民として、エンジニアの卵として人類や地球に優しい判断をし、意見を言えるようになること。15%(a1,2,3)。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	社会や世界の仕組みと現状を学び、人類的に重要な問題を詳細に理解する。		社会や世界の仕組みと現状を学び、人類的に重要な問題を理解する。		社会や世界の仕組みと現状を学び、人類的に重要な問題を概ね理解する。		左記に達していない。
評価項目2	社会的な常識や問題意識および、良心的判断の基礎を詳細に理解すること。		社会的な常識や問題意識および、良心的判断の基礎を理解する。		社会的な常識や問題意識および、良心的判断の基礎を概ね理解する。		左記に達していない。
評価項目3	地球市民として、エンジニアの卵として人類や地球に優しい判断をし、意見を詳細に言えるようになる。		地球市民として、エンジニアの卵として人類や地球に優しい判断をし、意見を言えるようになる。		地球市民として、エンジニアの卵として人類や地球に優しい判断をし、意見を概ね言えるようになる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代の日本社会と世界について、その特徴と政治・経済・社会の仕組みについて学習して理解し、それらについての常識や問題、および、良心的判断の基礎を養成してください。自律した地球市民として人類や地球に優しい判断ができ、また、政治・経済・社会の様々な課題を考えて問題の解決をはかって、意見を言えるようになるために、社会科学の基礎を学習する科目です。 ○関連する科目: 世界史 (1年)、日本史 (2年)、現代倫理 (2年)						
授業の進め方・方法	基本事項を解説するとともに、資料集などを活用し、理解を深める。						
注意点	授業にまず集中することが第一です。ただ板書を移すだけの受動的態度でなく、日付と話題、教科書や資料のページを忘れず、板書内容には重要ポイントを強調して書くことです。各項目へのコメント付与は大歓迎です。当日の記述の最後に、まとめと考察や意見・感想を書けるようにしてください。 家庭での予習と復習では、学習範囲についてはもちろんですが、諸課題や諸問題について新聞や書籍や資料を読み、インターネットを検索し、テレビをみて、授業内容を確認し補充して下さい。 特に地理の知識は重要です (サッポロ、センダイ、ナゴヤ、オオサカ、キョウト、フクオカ、カゴシマ、オキナワ、ナハ等の重要な地名を漢字で書けるように)。 ノートの取り方について。ノートは提出しやすいように一冊ノートを使って下さい。日付と話題と板書内容を分かりやすく書き、授業で参考にする教科書や資料のページを忘れず書いて下さい。コメントや意見が書いてあると非常にいいです。ノートは随時提出してもらいます。ビデオの感想文などもノートに書いて提出してもらいます。夏休みの課題も、ノートに書いて休み明けに提出して下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・ノートの作り方		授業の概要・ノートの作り方について理解する。		
		2週	社会経済のあり方		社会経済のあり方について理解する。		
		3週	憲法原理: 基本的人権の尊重、国民主権主義、平和主義		憲法原理: 基本的人権の尊重、国民主権主義、平和主義について理解する。		
		4週	立憲主義: 民主主義、三権分立、市民主権・自治		立憲主義: 民主主義、三権分立、市民主権・自治について理解する。		
		5週	政府の仕組み、選挙制度		政府の仕組み、選挙制度について理解する。		
		6週	平和主義: 戦争の惨禍と戦争放棄、第9条の理解		平和主義: 戦争の惨禍と戦争放棄、第9条について理解する。		
		7週	平和主義: 新日米安保体制、世界の安全保障体制		平和主義: 新日米安保体制、世界の安全保障体制について理解する。		
		8週	中間試験		試験時間: 50分		
	2ndQ	9週	基本的人権: 自由権		基本的人権: 自由権について理解する。		
		10週	基本的人権: 平等権		基本的人権: 平等権について理解する。		
		11週	基本的人権: 社会権		基本的人権: 社会権について理解する。		
		12週	日本の財政 (政府一般会計の構造、財政破綻問題)		日本の財政 (政府一般会計の構造、財政破綻問題) について理解する。		
		13週	日本の金融 (長期低金利、世界金融危機問題)		日本の金融 (長期低金利、世界金融危機問題) について理解する。		
		14週	日本の社会保障 (公的年金制度の破綻と改革)		日本の社会保障 (公的年金制度の破綻と改革) について理解する。		
		15週	企業と労働者 (技術革新と労働市場の変化、格差)		企業と労働者 (技術革新と労働市場の変化、格差) について理解する。		
		16週	前期末試験 17週: 試験解説・発展授業		試験時間: 50分		
後期	3rdQ	1週	破壊される地球		破壊される地球について理解する。		

		2週	地球環境問題への取り組み, 限りある資源	地球環境問題への取り組み, 限りある資源について理解する。
		3週	エネルギーの開発と利用, 人口問題と食料・水資源	エネルギーの開発と利用, 人口問題と食料・水資源について理解する。
		4週	経済主体と経済活動の意義, 経済社会の変容	経済主体と経済活動の意義, 経済社会の変容について理解する。
		5週	市場のしくみ, 市場の失敗	市場のしくみ, 市場の失敗について理解する。
		6週	現代の企業, 国民所得, 経済成長と国民の福祉	現代の企業, 国民所得, 経済成長と国民の福祉について理解する。
		7週	戦後復興から高度経済成長へ, 安定成長からバブル経済へ, 日本経済の課題	戦後復興から高度経済成長へ, 安定成長からバブル経済へ, 日本経済の課題について理解する。
		8週	中間試験	試験時間: 50分
	4thQ	9週	日本の中小企業, 日本の農業	日本の中小企業, 日本の農業について理解する。
		10週	消費者問題, 公害の防止と環境保全	消費者問題, 公害の防止と環境保全について理解する。
		11週	国際社会と国際法, 国際的な人権保障と国際政治	国際社会と国際法, 国際的な人権保障と国際政治について理解する。
		12週	国際連合と国際協力, 冷戦の成立とその崩壊	国際連合と国際協力, 冷戦の成立とその崩壊について理解する。
		13週	こんにちの国際政治, 人種・民族問題	こんにちの国際政治, 人種・民族問題について理解する。
		14週	軍拡競争から軍縮へ, 国際平和と日本の役割	軍拡競争から軍縮へ, 国際平和と日本の役割について理解する。
		15週	国際経済の動向と国際協力	国際経済の動向と国際協力について理解する。
		16週	期末試験 17週: 試験解説と発展授業	試験時間: 50分

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	後2,後3
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後13
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前15,後12,後14,後15
	工学基礎	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後4,後5,後6,後7,後9,後12,後14
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後13
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	後15

評価割合

	試験	授業参加	ノート	レポート	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	20	10	0	0	100
基礎的能力	60	10	20	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0